

巻頭言

京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会（以下で京大数学教室同窓会と略記します）は昨年6月6日に開催された設立総会で発足し、不肖、私が会長に指名されました。それから一年以上が経過し、本年の11月19日に開催予定の第1回京大数学教室同窓会に向けて準備が進んでおります。

この同窓会の会員は、明治30年に設立されて今日に至る長い歴史を持った京大理学部数学教室、京大大学院理学研究科数学教室で学んだという唯一の共通で結ばれております。即ち、京大数学教室同窓会は、この唯一の共通点のみで繋がった多様な構成員から成りたっています。

言うまでもなく京大数学教室の第一の使命は、高度に発展した現代数学の研究であり、その点では、当数学教室は我国の数学研究における最高の研究機関の一つとして、世界で認められる存在になっています。しかし当数学教室の使命はそれだけではありません。そこには数学の教育機関としての重要な使命があります。このことは同じ京都大学に設置されている数理解析研究所（ここは現代数学の研究では超一流です）と大きく異なるところです。当数学教室では、理学部の学生や大学院理学研究科の学生に、講義、演習、セミナーなどの授業を行っており、その段階では、受講生の将来の進路が数学の研究者であるか、中学校や高校での教員であるか、あるいは数学の高度な知識が要求される企業に就職するか、等の区別なく、全く同じ数学の授業が提供されます。提供者である数学教室のメンバーは皆優秀な数学者であり、その関心は専ら、数学を正しく、その真髄を伝えることにあると思います。その様な授業は受講者にとって貴重なもので、卒業後の進路が何であれ、大きな利益を与えるものと信じます。それはまた、京大数学教室卒業生の高い評価につながるものと思います。

私が今でもよく思い出すのは、私が新制中学1年生のとき（もう70年近い昔になります）今は亡き滝澤精二先生が、京大数学科を卒業された直後、私達の中学に1年間赴任されたときのことです。そのときの先生の授業は、教育技術ではベテラン教師に劣るものの、私達に数学の魅力を感じさせてくれるものでした。やはり京大出の先生は偉いんだなと思いました（この時の先生の思い出については昨年配布された同窓会設立記念誌に「宇治分校に通った頃」という題で書かせて頂いた）。

京大数学教室同窓会が、その構成員を繋ぐ唯一の共通点である京大数学教室の良き思い出を共有する場になることを心より願っております。

京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会
会長 渡辺 信三